

テレビやインターネット上で、「あけおめ（明けましておめでとう）」や「おこ（怒っている）」「それな（そうだね）」のような言葉がたくさん使われている。このような言葉を「打ち言葉」というそうだ。携帯電話やパソコンなどで打った文字や文章のことである。現在は、日常生活の会話の中でもよく見聞きする表現だ。

資料①において、十六歳から十九歳では、「打ち言葉」を「使うことがある」と回答している人が五割を超えるが、二十代では四割、三十代では一割程度にとどまっていることが分かった。このことから「打ち言葉」は、より若い世代に親しまれている表現方法であると言える。しかし、私は、言葉によるコミュニケーションを図るときには、資料②にある四つの要素の中でも、敬意と親しさのバランスをとること、、伝える相手と自分との関係を重視することが最も大切だと考える。

私は、共感を表すときに打ち言葉の「それな」をよく用いていた。なぜなら、今の自分の気持ちが相手に一番分かってもらえると ^I 思っていた。先日、私は部活動の先輩に SNS [※] のグループの中で「それな」と送信した。すると後日、友達から「先輩にはちゃんと敬語を使った方がいいよ」と言われた。その時、何気なく使った「打ち言葉」は、目上の人である先輩を不快にさせる失礼な言葉だったかもしれないと気付かされた。親しい間柄で、敬語を使うのは堅苦しいだろうと思っていたので、とてもショックだった。

今や私たち十代の生活に「打ち言葉」は身近なものとなっている。時代が進むにつれて言葉は変化していき、こ

れから「打ち言葉」以外にも、新たな「言葉」が増えていくと予想される。だからこそ、言葉を使うときは、相手を考えていかなければならないと思う。

II 言葉によるコミュニケーションを図るには、互いに心地良い距離をとりながら伝え合うことが大切だと思うからだ。これからは、言葉を受け取る相手との関係を心に留め、適切に敬語を使いなから、敬意と親しさのバランスをとっていきたい。

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。

人と人との社会的なつながりを推進・促進する様々な機能を提供する、会員制のオンラインサービス。

一 の中に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 つまり
- 2 だから
- 3 すると
- 4 ところで

二 山口さんは、【意見文の下書き】を読み返して、——線部I「思っていた」の部分を書き直すことにしました。書き直す言葉として適切なものを書きなさい。

三 山口さんが書いた【意見文の下書き】において、第三・四段落はどのような働きをしていますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 1 第二段落で述べている根拠を基に意見を詳しく述べる働き。
- 2 第二段落で述べている意見の根拠となる具体例を詳しく述べる働き。
- 3 第三段落で述べている具体例を基に再度自分の意見を述べる働き。
- 4 第三段落で述べている具体例を基に再度自分の根拠を述べる働き。

四 ———— 線部Ⅱ「言葉によるコミュニケーションを図る」について、次の問いに答えなさい。

山口さんは、資料②の【言語コミュニケーションの四つの要素】を参考にして、その中で「敬意と親しさ」が一番大切だと考え、意見文を書きました。あなたなら、どの要素を大切にしてコミュニケーションを図りたいと考えますか。AからDまでの中から一つ選び、それを選んだ理由について、自分の体験や既に知っている知識を入れて具体的に書きなさい。

【言語コミュニケーションの四つの要素】

- | | |
|---|----------|
| A | 「正確さ」 |
| B | 「分かりやすさ」 |
| C | 「ふさわしさ」 |
| D | 「敬意と親しさ」 |